

第10期 ちえのわ農学校 活動報告

2014年度第10期ちえのわ農学校では、次の3つを理念に4月から翌年1月まで全10回にわたり活動を行ってきました。

*自然のわ：自然の様々な表情と向き合いながら、「種から胃袋まで」の道のりを実践することで、命・自然とのつながりを五感で感じるきっかけづくりをする。

*人のわ：農学校だからこそできる体験を通じて子どもたちが仲間とのつながりを感じられるきっかけづくりをする。

*知恵のわ：昔ながらの知恵や文化にふれ、身近なものを見つめなおすきっかけづくりをする。

2014年4月19日「自然いっぱいの農園へようこそ！～今日から君もちえっこデビュー！～」

スタッフや他の友達とのドキドキの初対面。アイスブレイキングで緊張をほぐしてから、農園散策を楽しみました。畑の活動では自分の育てる野菜を決め、ポットに種をまきました。「大きく育てて夏に収穫したら、こんなふうに食べたいなあ」といった目標も立てました。

農園散策



畑作業



2014年5月17日「夏と秋の実りに向けて、準備をしよう！」

5月は、4月にまいた野菜の種が芽吹いて小さな苗になっているところです。それを畑に植え替えました。クワや草かきを使って畑を整えて、植え替えて、水をあげて、、、大変な作業でしたが、なにもなかった畑が畑らしくなりました。

そして5月のビッグイベントといえば田植えです。田んぼに1列に並んで、みんなで順番に「ちえのわ米」の苗を植えていきます。はじめは泥のぬかるんだ感触が気持ち悪く感じるけど、みんなで植えていくうちにだんだん楽しくなっていっちゃんからこれが不思議。植え終わった後は隣の田んぼで泥遊び！みんな全身泥だらけです。そのあとはドラム缶風呂に入って温まります。秋にたくさんのお米が収穫できますように。

田植え



ドラム缶風呂



味噌作り



2014年6月14日「野菜の成長のために、畑をコーディネートしよう！」

6月は「畑のコーディネート」と銘打って、自然農薬作りと畑に立てる看板作りをしました。

「ニンニクやトウガラシを使うと虫は嫌がるらしい」—子どもたちと共に私たちスタッフも勉強になることがたくさんあります。

看板は自分が育てている野菜だけではなく、他の友達が育てている野菜も一目でわかるように区画も作りました。「ここが自分たちの畑」感が強くなったとともに、より一層育てている野菜への愛着をもつことができたのではないのでしょうか。

自然農薬作り



看板作り



2014年7月12日「暑さに負けるな！涼しさをつくりだそう！」

7月は「みんなで“涼”をつくりだそう！」ということで、竹を使って風鈴や水鉄砲、うちわを作りました。のぎりで竹を使いやすい大きさに切ったり、錐で穴をあけたり、それぞれが試行錯誤しながら作業しました。お昼には流しそうめんを食べました。暑さを忘れて、流れてくるそうめんにみんな夢中。水遊びもして元気に農園を駆け回りました。

竹工作



流しそうめん



2014年8月23日・24日「太陽の恵みに感謝！みんなで夏の農園(ちえのわ)を満喫しよう！！」

8月はキャンプです！農園にテントを張ってみんなで1泊します。企画も盛りだくさん。

まずはヤマメさばき。生きたヤマメを自分の手でさばいて焼いて食べることを通して、命の大切やつなが

り、そして命をいただくということを学びました。

次は待ちに待った夏野菜の収穫。大きくなった自分の野菜を収穫する子どもたちの表情はとても嬉しそうでした。

野菜の収穫のあとはローソク作りと蚊取り線香作り。それぞれ作りたい方に分かれて活動しました。ローソクは溶かしたろうにクレヨンで色を付けたり、それを卵の殻に流し込んだりして、自分だけのオリジナルローソクを作りました。みんなの完成したローソクを並べてみると、目にも鮮やか。とてもきれいでした。蚊取り線香は木くずと除虫菊を主な材料に作ってみましたが、これがなかなか難しい。失敗から学ぶことも多い、とはよく聞きますが、こんなとき身の回りの当たり前のものを見つめなおす瞬間に出会えるような気がします。

夕食も自分たちで作りました。昼間に収穫した野菜を使って、夏野菜カレー・グリーンカレー・トマトカレーの3種類のカレーを作りました。調理もみんなで手分けして、協力して進めます。完成したカレーはご飯とともに一気に売り切れ。ちえのわで栽培・収穫した野菜を調理し食べることで、「種から胃袋まで」の道のりを達成することもできました。

夜はナイトハイクと影絵遊びをしました。暗闇に包まれた夜の農園はいつもとまた一味違います。影絵遊びは、みんなでストーリーを考えました。子どもたちの協力し合う姿に、友情の深まりを感じました。

2日目には農園の植物の葉を使って染め物をしました。葉の形の違いを生かして工夫を凝らしたり、葉によって色の出方に違いがあることを発見したりと、子どもたちひとりひとりの個性がうかがえました。

カレー作り



影絵遊び



染め物



2014年9月13日「冬野菜の準備をしよう！」

9月は冬に向けた畑の活動をしました。8月に決めておいた担当野菜の種をまきます。春に一度やっていることもあって、子どもたちの道具の使い方や種のまき方も慣れてきました。

また9月は畑でとれたシソを使って、シソジュースを作りました。シソを煮出したところにクエン酸を入れると鮮やかな色が変わって、一同「おおー！」。

田んぼの様子も見に行きました。毎月ちょっとずつ田んぼの様子は見ていますが、今月は田んぼに網がかけられているのをすぐさま発見。これは鳥に稲穂をつつかれないようにするためで、つまり少しずつお米ができていくという証拠。収穫までもう少し！

畑作業

シソジュース



2015年10月11日「秋の実りを肌で感じ、作物に感謝をしよう！」

10月はいよいよお米の収穫です。一人一本カマを持って、稲を刈り取っていきます。刈り取って、数束ずつひもでしばってまとめ、そしてそれを干しに行くという、なんとも地道で体力の要る活動でしたが、田んぼの稲はあっという間に刈り取られ、子どもたちのパワーをまざまざと感じる瞬間でした。

稲はひと月干しておいて、来月食べられるように加工します。

また10月はさつまいも掘りをしました。さつまいもといえば焼き芋！ということで、収穫したさつまいもをさっそく新聞紙とアルミホイルでくるんで、たき火に入れます。あつあつの焼き芋をほおぼって、収穫と秋の味覚を堪能することができました。

さつまいもほり

稲刈り



2015年11月15日「食材から食品への大変身！秋の味覚を体感しよう！」

11月は収穫したお米を、食べられるように加工していきます。そう、脱穀と精米です。足踏み脱穀機と唐箕を使って脱穀し、精米は精米機の力を借りました。また穂を外した稲わらは細かく切り、肥料になるように田んぼにまきました。稲を余すところなく有効に使うとする昔の人の知恵や工夫を感じながら活動することができました。12月はいよいよちえのわ米がお昼ご飯に登場します。

唐箕を使った作業



2014年12月13日「年末年始の準備！自分の冬を作ろう！」

12月は、リースや門松を作ったり、わら工作をしたりしました。リースは植物のつるに、松ぼっくりや木の実、落ち葉を飾り付けてナチュラルリースを作りました。門松は、太い竹と細い竹のほかに葉っぱを飾り

付けて、年末年始らしい作品ができました。わら工作は、ちえのわ米のわらを使って、しめ縄を作りました。午後は自分の作品を発表し合いました。子どもたちはそれぞれ、自分だけの冬を作れたのではないかと思います。

お昼は自分たちで育てたちえのわ米と、午前中に畑で収穫した野菜をふんだんに使ったご飯を食べました。夏野菜に続き、冬野菜もたくさんの収穫に恵まれました。

また 12 月はお餅つきをしました。こちらもちえのわで栽培・収穫したもち米を使いました。重い杵を持って餅をつく子どもたちの表情は、大変そうながらもとても楽しそうでした。

大根収穫



もちつき



門松作り



2015 年 1 月 24 日 「一年間のまとめ！最後までみんなで楽しもう！」

1 月はいよいよ最終回。泣いても笑ってもこのメンバーと一緒に活動できるのはこれが最後。

まずは一年間お世話になった畑の片づけをしました。まっさらになってしまった畑に、いっそう寂しさを感じます。そして今度は一年間の活動を思い出しながら答えるクイズゲームをやりました。グループ対抗戦で、「これってこんなことしたよね」「この写真は 6 月のだよ！」と力を合わせて思い出します。ゲームは大盛り上がりで、一年間を楽しく振り返ることができました。

午後は修了式を行いました。一年間の活動のスライドショーを見て、最後はみんな修了証を手に、スタッフと全員で写真を撮りました。寂しさを感じながらも、「またどこかで会いましょう」と笑顔でお別れをしました。